

# UPDATE

## ■ 第21回非開削技術研究発表会を開催

11月30日(火)、東京都港区虎ノ門の「発明会館ホール」において当協会の第21回非開削技術研究発表会を開催しました。

本年度は例年以上に多くの論文をご投稿頂いたため、発表会は朝9時から夕刻6時まで、途中休憩を挟んで合計9時間にも及ぶものとなりました。発表論文数は25編、これを技術ジャンル毎に7セッションに区分してご発表頂きました。研究発表会への参加者も、合計200名に上りました。発表に対する質疑応答も活発に交わされ、広範囲な非開削技術の発展に貢献できる研究発表会になりました。

## ■ 非開削技術見学会の開催

### (φ4000mm超大口径管推進)

11月25日(木)、横浜市港北区内で施工中の雨水の一時貯留を目的とした、φ4000mm超大口径鉄筋コンクリート管推進の現場見学会を開催しました。参加者は約70名となり、今後の超大口径管への技術者の関心の高さを伺わせるものとなりました。

## ■ 国際交流

- ① 11月8日～10日の間、シンガポールで開催されたNO-DIG国際会議に調査団を派遣しました。現地では、国際会議及び展示会に参加するとともに、他国の非開削技術協会(各国STT)との活発な意見交換を行って参りました。この結果、当面アジア地域の幾つかの国・地域のSTTとの間で定期的な交流を企画検討することとなりました。
- ② 11月19日(金)、元ISTT(国際非開削技術協会:ロンドン)会長の米国人R.スターリン博士の来日に伴い、「最近のアメリカ非開削技術動向と中国における非開削市場の今後」をテーマとした講演会を開催しました。参加者は約20名でありました。
- ③ 2011年5月にドイツ国首都ベルリンで開催予定の2011年No-Dig国際会議への論文募集を当協会会員に周知しました。

## ■ JSTT各委員会の活動

### (1) 技術委員会

第71回委員会を10月5日(火)に開催しました。ここでは2010年の第21回非開削技術研究発表会について、投稿頂いた論文概要(アブストラクト)の審査及び各論文のセッション区分並びに時間配分について審議した後、各セッションの座長を選任しました。なお、本年度は25編と多数の投稿を頂きました。

### (2) 機関誌(No-Dig Today)編集委員会、企画編集小委員会

#### 【編集委員会】

第75回委員会を10月6日(水)に開催しました。ここでは、機関誌No-Dig Todayの第4クールのスタートに先立って特別に企画した機関誌73号「材料からみた地下管路設備の耐震化・長寿命化」の記事内容、編集方法及び表紙構成等を審議しました。

#### 【企画編集小委員会】

第78回小委員会を10月6日(水)に、第79回小委員会を11月9日(火)に開催しました。ここでは、機関誌第4クールについての記事募集範囲、記事執筆をお願いする上での留意事項、編集方法の詳細等を審議しました。

(注)クール:地下設備の誕生(建設)から再生(構成・改築)までの一連の技術サイクルを1クールと言っている。1クールは極小口径管路の建設から老朽管路の改築再生までの計8号で構成しています。

### (3) ソーシャルコスト検討委員会

第3回委員会を10月29日(金)に開催しました。ここでは、各ライフライン企業者の非開削工法(推進工法)の採用理由調査結果(アンケート)が審議され、これと共に非開削工法の社会的効果について論議されました。また、道路交通が遮断された場合の迂回を含めた影響のシュミレーション(案)が提示されました。

### (4) 地下探査技術委員会

第3回委員会を11月12日(金)に開催しました。ここでは、非開削探査が必要とされる現場条件とそれぞれの条件に利用できる非開削探査技術との相関マトリクスを作成し、この中から当委員会で審議する利用頻度の高い探査技術を絞り込むこととしました。

### (5) HDD(誘導式水平ドリル)工法委員会

第43回委員会を10月8日(金)に開催しました。ここでは、既刊の標準設計積算要領改定(案)(曲線適用機能の明確化など)や施工品質を確保する上で重要なHDD工法の施工管理手引き(案)及び開削工法に対する機能、価格を含めたトータルのメリットのPR方法について審議しました。

### (6) 工法ナビゲーション運営委員会

第33回委員会を9月14日(火)に、第34回委員会を11月1日(月)に開催しました。これらの委員会では、昨年度のナビゲーションシステムの全面刷新を図ったことの成果と思われるアクセス数の大幅増が報告されました。また、取付管推進、改築推進の検索条件の改訂(案)、英語版の製作(案)などが審議されました。